
追放されし者

九葉羅斗

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

追放されし者

【Nコード】

N6093W

【作者名】

九葉羅斗

【あらすじ】

強欲なる者。悪意に彩られし者。負の器。神々にいくつもの蔑称を与えられた男、高橋裕也。

はるか昔の前世で女神を救うために女神の役目を奪った彼は役目を果たせなくなり世界を追放される。

たどりついた異世界で彼は生きていく。

主人公チート、ハーレムものです。初心者なので誤字脱字や話の矛盾などがあるかもしれません。ちょっとした空き時間に読んでください。

プロローグ1

「私の意見は通りましたでしょうか？」

凜とした女性の声が響く。

「うむ、いいだろう」

重々しい別の声が答える。

女性は、ほっとしたのを顔に出さないよう細心の注意を払いながら言う。

「では今日中に終わらせます」

女性が立ち去ろうとすると、声呼びとめる。

「待て、条件がある」

「何でしょうか？」

「決して感謝をしてはならない」

「……なぜ、仕事を奪われた私が人間ごときに感謝せねばならないのでしょうか」

「分かっているのならいい。我々神が人間に感謝をすることがあつてはならない」

「ええ、もちろんです」

血を吐く思いで答え続けた女性——女神は身をひるがえし、その場を去る。

女神の後ろを声が追いかける。

「では、高橋裕也の追放を実行しろ。欲望の女神ユリティナ」

ブローグ1（後書き）

他に連載しているものがあるのに見切り発車してみました。
両方とも少しずつ連載していきます。

プロローグ2

どうも、初めまして。高橋裕也といいます。

ちょっと暇があつたらお聞きしたいことがあるんですが、いいですか？

——世界ってこんなに殺意高かつたっけ？

今日は朝からひどかった。

朝飯を食べてる時にインターホンが鳴り出てみると

「私を愛してくれないなら死んで!!」

数回しか会ったことのない女性にナイフを持って突っ込まれたり。

大学に行くために電車を待っていたら、電車が来た瞬間。

「積年の恨み——」

と叫んだ会ったことのないおっさんに突き落とされたりされたりした。

俺こんなに一日の内に殺されかけたこと無かつたんだけど、もしかしてこれが普通なのかな？

今までがラッキーだっただけ？

うん、ごめん。実は分かってるんだよそんなことがないってくらい。

ちょっと現実逃避がしたかっただけ。

あ、ちなみに今はどういう状況かって？

トイレの中で頑張ってる間に建物自体が火事になりました（笑）。

火災報知機が壊れていたのか何の音も聞こえなかったんだよね。

トイレの個室から出たらあらびっくり、あたり一面火の海。

もう笑うしかなくね？

ていうかもっと頑張れよ、火災報知機。

火事に活躍しなかったらお前がいる意味ねーだろ。

「仕事のしない――火災報知機めっ！！」

叫けんだせいで、肺の中の酸素が一気に持ってかれた。

意識が遠くなってくる。

このままではだめだと思うも体に力が入らない。

まさか、最後の言葉が――ト火災報知機になるなんて……。

その思いを最後に高橋裕也は日本での生を終えた。

プロローグ3

「起きなさい」

声をかけられて俺は意識を取り戻した。

目の前には、肉感的な美女がいる。

「はい？」

その美女に見覚えはない。

っていつか俺は火事で二ト火災報知器って叫んで死んだはずじやなかっただろうか？

しかし、今俺は辺り一面真っ白な場所にいる。

「ここは神界。読んで字のごとく神々の住む世界よ」

目の前の美女が俺の疑問に答えてくれた。

この展開だとあれじゃないか。

理不尽な理由で死んだ後に神界。

いわゆる、異世界転生もの。

俺の大好きなネット小説での鉄板な展開が今俺に！

徐々にテンションが上がってくる。しかし次の美女の言葉で俺の思考が止まった。

「個体名高橋裕也。あなたをこの世界から追放します。」

.....

.....

「聞いていますか？ 返事ぐらいしなさい」

俺は我に返り疑問を捲し立てる。

「いやいやいや、世界追放ってなんだよ！ 俺なんかしたか？ 火事で死んだだけじゃん！」

美女は眉をひそめた。

「私は女神ですよ。言葉遣いに気を付けなさい」

えー、いや確かに女神に対する言葉遣いとしては悪かったかも知れないけど、そんなことより俺の疑問に答えてくれよ。

「あなたは遥か昔の前世で神の仕事を奪いました。これだけで十分厳罰の対象となります。」

プロローグ4（前書き）

次でプロローグは終わりです。

次からは一週間に一度を目安に更新していきたいと思っています。

プロローグ 4

欲望、怒り、悲しみ、それらの負の感情が生き物の体に収まりきらず、あふれ外に出ると障気になる。

障気が溜まると魔物になる。

故に障気を吸収し、浄化をする神がいた。

その神はまだ幼い少女の神だった。

しかし、少女は幼すぎた。

浄化の能力はまだ弱く、いつしか浄化しきれずその体に溜め込むようになった。

やがて少女神は障気に体の内側から侵され始めた。

障気により、邪神へと変りかけている少女神に気がついた幼なじみである半神半人の少年は彼女のために何かできないかと考えた。

人の血が混ざっているがゆえに神の中で迫害されていた少年に分け隔てなく接してくれた少女のために行動するのは当然の事だった。

少年は自らの弱い神格を変質させ、障気を貯める器となった。

少年はいつか少女が一人で障気を完全に浄化できるように成長するまでの器になった。

全ての神格を使ったため、ただの人間に身を堕としてしまったが少年は満足だった。

大切な少女を救う事ができたのだから。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6093w/>

追放されし者

2011年11月28日13時59分発行